

# 三重県初、バイオガス発電施設

## 大栄工業

# 食品リサイクル事業拡大



「バイオガスパワープラント伊賀」が完成

大栄工業（三重県伊賀市、山本文生社長、0595・21・0988）は7月18日、

三重県初となる食品残さをエネルギー利用した発電施設「バイオガスパワープラント伊賀」の竣工式を開いた。15年以上にわたって、堆肥化による食品リサイクル事業を営んできた同社は、新たに食品残さをエネルギー利用したプラントを建設。発電出力は500キロワット（250キロワット×2台）で、年間発電量は約400万キロワット時上る見

通し。FITの認定を取得しており、自家消費分をのぞく全量を電力会社に売電する。

同社の三谷工場（伊賀市）内に設置したプラントの直径は25メートル。大原鉄工所製の設備を採用しており、総事業費は約15億円とした。受入可能な品目は、▽汚泥▽廃油▽廃酸▽廃アルカリ▽動植物性残さ▽家畜ふん尿の6品目で、処理能力は日量62・31ト（24時間稼働）。発電に用いる原料は、青果物や肉類、魚かすなどの食品残さ

を中心に日量50ト受け入れ、そのうち7割が産業廃棄物由来、3割が一般廃棄物由来。徐々に一廃由来を増やしていく考えだ。

受け入れた廃棄物は、破袋・破砕分別機で廃プラスチックや異なる流れ。

一定量を発酵槽へ安定供給し、湿式中温発酵方式により、38度Cの槽内温度を保つメタン発酵槽で25日間かけて発酵させ、発生したメタンガスで発電する流れ。

同社は今後、堆肥、発電利用に続き飼料化

業者は、「食品廃棄物の成分・性状によって、飼料化や肥料、エネルギー利用できるものの違いを見極め、多種多様なリサイクル技術を確立することで、より高度な利用ができると考えている」と話した。（関連記事4面）

事業の参入を検討しており、県と研究会を立ち上げ、早期の事業化を目指している。担当